

感謝と慈愛の心を持って

本学歯学部卒業生の皆さん、そして保護者のご家族の皆様、ご卒業を心からお慶び申し上げます。皆さんが授与された学位記は本学科所定の卒業要件を全て修了した証です。入学時より講義、実習、試験等に費やされた尊い努力を讃えるとともに、皆さんを暖かく支援された保護者やご家族の皆さま、熱心にご指導いただいた教職員の方々にも、衷心より厚く御礼を申し上げます。

また、大学院歯学研究科博士課程を修了して博士（歯学）の学位を取得された皆さん、学位論文を完成させるまでには苦難の連続だったことでしょう。しかし、学位取得のために費やされた多大な努力は、今後いかなる道に進もうとも、必ず明るい未来を切り拓く糧になるものと確信しています。これからもぜひ研鑽を重ねて、歯科医学・歯科医療の発展に貢献していただきたいと思います。さて、新型コロナウイルスが世界を震撼させてから早くも3年が経過しました。この目に見えない侵略者により人類はかつて無い苦難に直面し、私たちの日常も大きく様変わりしました。皆さんの大学生活の後半も、感染防止のために人との交流が抑制され、学生生活にとって最も大切な新たな出会いや友人との繋がり、課外活動も著しく制限されたに違いありません。歯科医療に必要なコミュニケーション能力を涵養する歯学教育も無機質な媒体を利用せざるを得ませんでした。

このコロナ禍にあって、今では普通に実施している遠隔授業も当初は手探りであり、私たち教職員も実は必死の毎日でした。登校日には大切な学生を感染から守るために、毎日の検温や頻繁な手指消毒など厳しいルールを定め、皆さんにも遵守して貰いました。そうした中で、感染者数は決して減少していませんが、本年、卒業式を挙行できることは何よりの喜びです。コロナが終息した暁には、心置きなく同級生同士で集まって、鶴見キャンパスで過ごした大学生活を笑いながら振り返って欲しいと思います。試練を乗り越えた後にはきっと大きな喜びを実感できるのではないのでしょうか。当初、歯科医療は感染しやすい行為とマスコミから非難され、歯科医療従事者も感染リスクの非常に高い職業と名指しされましたが、実際には歯科医療での感染例の報告はほとんどありませんでした。院内感染を起こさないために、歯科医師や歯科衛生士は常日頃から万全の予防策を講じていることが証明されたわけです。加えて、口腔内を清潔な環境に保つことが、ウイルス感染や重症化リスクを低減することも改めて確認されました。大切な患者のために日々最前線で活躍している歯科医療従事者を改めて誇りに思うことができました。本日の卒業式にあたり皆さんには、国民の健康寿命の延伸に貢献する歯科医療の崇高さをぜひ再認識してほしいと希望します。

卒業後は鶴見大学同窓生の一人になったという自信と誇りを持ち続け、ディプロマポリシーに明記された「感謝と慈愛の心を持って患者中心の医療の実施」を生涯心がけていただきたいと思います。生涯にわたり真摯に研鑽を継続し、患者さんや社会から信頼され、尊敬される歯科医師になられることを心から祈念して、私からの祝辞とさせていただきます。ご卒業誠におめでとうございます。

令和5年3月14日
歯学研究科長・歯学部長
大久保 力廣

